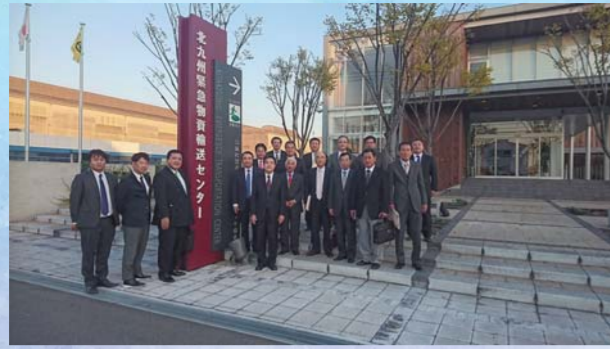


自民党誠心会

県外調査報告



ミニワールドスタジアム北九州の施設概要について

Fukuoka



ミニワールドスタジアム北九州を訪問。指定管理者である株式会社ウィンドシップ北九州からスタジアム建設に至った経緯やそのコンセプト、公共交通機関からのアクセス、年間の稼働状況、施設の概要等について説明を受け、施設内を見学。

農産物の輸出促進の取り組みについて

09

Fukuoka



九州農産物通商株式会社を訪問。「フェア企画・開催」「販売拡大のトータルサポート」から全国各地の産地と連携した「オールジャパン」の取り組みなど、オール九州での輸出の支援・代行から自治体のプロモーションの支援等の農産物の輸出促進の取り組みについて説明を受け、意見交換。

「70歳現役社会」づくり推進事業について

10

Fukuoka



福岡県新雇用開発課を訪問。年齢にかかわらず、それぞれの意思と能力に応じて働いたりNPO・ボランティア活動等に参加し、活動することができる選択肢が多い社会という意味である「70歳現役社会」に向けての「いきいきと働くことができる仕組みづくり」や「共助社会づくりへの参加促進」について説明を受け、福岡県70歳現役応援センター福岡オフィスを視察。

NEWS

自民党誠心会 県政報告 掲示板

NEWS 白壁賢一議員が第126代議長に就任しました



12月19日の就任記者会見

NEWS 杉山肇議員が平成29年10月に山梨県監査委員に選任されました



11月13日 富士山科学研究所監査

NEWS 新メンバー紹介 乙黒泰樹議員が加入しました



12月議会で一般質問

NEWS 歴史文化研究クラブ(会長 渡辺英機議員)が平成29年7月に設立されました



12月4日 第2回 歴史文化研究会開催

自民党誠心会 22名 紹介

甲府市選挙区
会派代表
皆川 巖

南都留郡選挙区
県議会議長
白壁 賢一

笛吹市選挙区
前 茂島 松

甲府市選挙区
白 成井 夫

笛吹市選挙区
中 正村 則

南都留郡選挙区
渡 辺 英 機

北杜市選挙区
浅 力 川 三

甲府市選挙区
鈴 幹 木 夫

上野原市・北都留郡選挙区
石 脩 井 徳

南巨摩郡選挙区
望 月 勝

中央市選挙区
河 敏 西 郎

北杜市選挙区
大 邦 柴 彦

甲斐市選挙区
山 一 田 功

中巨摩郡選挙区
塩 澤 浩

南アルプス市選挙区
桜 広 本 樹

甲府市選挙区
永 井 学

都留市・西桂町選挙区
杉 山 肇

西八代郡選挙区
遠 藤 浩

甲斐市選挙区
猪 尚 股 彦

富士吉田市選挙区
渡 淳 辺 也

甲府市選挙区
宮 本 秀 憲

山梨市選挙区
乙 黒 泰 樹

自民党誠心会 県政報告

おごり、独走せず
他党派も尊重して
公平・公正な
議会運営をしたい

第3号
平成30年1月号



山梨近代人物館

山梨県庁別館



各種議会改革に取り組んだ平成29年 本年も県民生活の向上に向け努力

平成30年、新しい年を迎えました。自民党県議会議員の所属会派が10年ぶりに一本化し、22名の最大会派・自民党誠心会が結成されてから早いもので1年4ヶ月が経過しました。「政治は義理と人情とやせ我慢」と言われますがこの間、私たちは様々な経験の中から仲間を信じ結束して議会活動を行うことの大切さを改めて知りました。

そして、「議会基本条例」を制定し「選挙区議員定数の削減」「選挙区統合」を成し遂げ、さらに「やまなし子ども・子育て支援条例」も実現することが出来ました。また、県議による「歴史文化研究クラブ」も設立されて、戦国武将として信玄公よりも領土を拡大した「名将武田勝頼」や甲州八珍菓を選定し甲府城下町を整備し悪役のイメージを払拭した「柳沢吉保」

の実像を知ることが出来ました。今後も郷土の歴史を学び研鑽を重ねながら「ふるさと山梨の県民生活の向上」を目指して二元代表制の一翼を担う責任を自覚し関連な議会活動を展開してまいります。

自民党誠心会代表 **皆川 巖**

平成29年度6・9・12月議会

会派議員の代表・一般質問・答弁要旨



6 June



1 公共土木施設の維持修繕・保全事業等の拡充について

質問 本県においては防災・減災対策や老朽化対策などの大規模な修繕事業、公共土木施設の維持管理業務の増大などの課題がある。

最近の道路舗装や路面標示などの痛んだ状況や河川内の支障木の繁茂、土砂の堆積状況など県民の安全・安心の確保について懸念しているところであり、公共土木施設の維持修繕・保全事業等について予算確保に努めることが重要であると考えます。

そこで、公共土木施設の維持修繕・保全事業等の拡充について伺う。

知事 長寿命化計画や維持管理計画に基づく維持修繕・保全事業を推進していくとともに、必要となる公共事業予算の確保を国に対して強く要望していく。

2 農業の6次産業化の推進について

質問 県では、農業の6次産業化を推進するため、美味しい甲斐開発プロジェクトを立ち上げ、県産農産物を使った新たな加工品の開発に取り組んでいる

が、今後は、開発された商品の魅力を更に高めるための改良はもとより、販売先に安定して供給するための工夫や、県内外において、より多くの方々の目に触れる機会を増やす努力が必要と考える。

そこで、県では農業の6次産業化の推進に、今後どのように取り組んでいくのか、所見を伺う。

知事 魅力ある商品の開発に加え、開発した商品の見える化などを積極的に展開し、農業の6次産業化を一層推進し、農家の所得向上を図っていく。

3 県内に就職した大学生の職場定着について

質問 県内企業に就職した大学生のうち、3年以内に離職した割合は、全国平均を3.8ポイント上回り、およそ3人に1人が3年以内に離職してしまうという状況となっている。

大学生が就職先を選択する際のミスマッチを解消するためには、インターンシップを積極的に推進することが必要であると考えます。県では、県内企業に就職した大学生の職場定着について、どのように取り組んでいるのか伺う。

産業労働部長 産学官が連携したインターンシップを推進するとともに、様々な分野で躍進する県内企業の情報や山梨の魅力などを強力に発信していく。

9 September



1 総合球技場の整備について

質問 総合球技場の基本計画の検討に当たっては、より多くの人々が利用でき、満足度のいく、本県にふさわしい施設として、県民の理解が得られる中で、基本計画が策定されることを望む。

このためにも、基本計画では施設内容のみならず、整備手法や運営面での見直しなど、幅広い項目に渡って検討を進めるとともに、検討過程において県民に丁寧に説明し、幅広く意見を求める必要があると考えます。

そこで、基本計画の策定に向け、どのように取り組んでいくのか伺う。

知事 「県民みんなの球技場」として整備・運営が図られるよう検討を進め、県民の皆様に丁寧に説明し理解を得られるような対応を図っていく。

2 女性の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進について

質問 本年7月に訪問したマツダ(株)では、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組み、「最大の経営資源は人である」を基本コンセプトに、仕事と家庭生活の

両立を実現している。

本県は、企業の99.9%が中小企業であり、マツダのような取り組みは難しいとは思いますが、今後、広く県内に取り組みを浸透させていくには、普及啓発をこれまで以上に進めていくことが重要である。女性の活躍とワーク・ライフ・バランスを進めるにあたっての県の所見を伺う。

知事 女性の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進を図り、企業の魅力を高め、明るく元気な地域づくりにつなげていく。

3 健康寿命の延伸に向けた健康マイレージ制度の導入について

質問 医療費の増大は、財政を圧迫し県民負担の増大につながるため、その抑制のため生活習慣病予防に取り組み、健康寿命を延ばすことが重要である。

本県においても市町村ごとに各地域の特性を生かした取り組みが始まっているが、健康寿命日本一の堅持や更なる健康寿命延伸を目指し、県が率先し健康づくりに取り組むべきと考えるが、所見を伺う。

福祉保健部長 県内各市町村では、様々な取り組みが行われており、更なる健康寿命の延伸に向け、県としてどのような支援ができるのか、調査・研究をしていく。

12 December



1 河川の適切な維持管理について

質問 近年、全国各地で水害が頻発し、多大な被害が発生している。本県でも、更に激甚化が予想される豪雨災害に備えて、ハード対策とソフト対策をバランス良く講じることが必要である。県では、河川の緊急点検を実施した結果に基づき、河川内の支障木の除去や堆積した土砂の浚渫の予算を12月補正に計上したが、今回実施する緊急対策の内容と河川の適切な維持管理に向けた今後の取り組みについて伺う。

知事 河川状況を的確に把握し、地域との連携を深め、5箇年の集中対策プロジェクトとして、計画的な河川の維持管理に努めていく。

2 防災基本条例の制定について

質問 熊本地震の教訓からも明らかのように、行政が行う公助に頼るだけでは限界があると思う。

県は本年度、自助、共助による取り組みを促進するため、検討会議を設置し、防災に関する条例の制定を進めているが、このような条例の制定は、広く県民の防災意識の向上につながるものと期待している。

そこで、現在制定を進めている条例について、検討会議ではこれまでに、どのようなことが議論され、どのような規定を盛り込んでいくこととしているのか伺う。

防災局長 本県にふさわしい、自助、共助、公助が一体となった防災対策を示すため、県民意見を踏まえ、年度内に条例を制定する。

3 家庭の教育力向上について

質問 現在の家庭の実状は、少子化や核家族化の進行、地域社会における人間関係の希薄化など、子育ての不安や悩みも相談できず、知識や経験が乏しい保護者が増え、家庭の教育力は著しく低下し憂慮すべき状況にあると危惧している。

今後は、保護者が、幼児期から積極的に子どもの教育に関わる必要があると考えるが、県では、家庭の教育力向上の手立てとして、どのような取り組みを進めているのか伺う。

教育長 市町村や関係機関などの役割も十分踏まえ、家庭の教育力の一層の向上に取り組んでいく。

自民党誠心会 県外調査報告

自民党誠心会は、県民生活の向上を目指し、県政の様々な課題に取り組むために、全国各地へ赴き、行政、企業の成功事例を直接見て、感じて、学びながら調査、研修を重ねています。

今年度は、7月19日～21日に岡山・広島県と、11月28日～30日に福岡県を訪ね、調査・研修を実施しましたので、その報告をいたします。

「岡山県、広島県」県外調査報告

7月19日～21日

調査は、産業振興、環境対策、人材育成、子育て支援、地域振興等をテーマに、岡山、広島県内の各施設を視察し調査、研修を行いました。

おかやま新エネルギービジョンについて

Okayama



岡山県新エネルギー・温暖化対策室より、新エネルギーの普及拡大を地球温暖化防止だけでなく、産業振興や地域活性化にも結びつけるための方向性や方策を示し、県民、市町村、民間企業等の多様な主体の協働による取組を加速することを目的とする「おかやま新エネルギービジョン」について説明を受け、意見交換。

ひろしま版ネウボラについて

Hiroshima



広島県子育て支援部長を訪問。子育てに関する不安や負担を軽減し、子育てでできる環境整備に向けて、子供と家庭に関する切れ目のない相談拠点を構築する「ひろしま版ネウボラ」について説明を受け意見交換。ちなみに、「ネウボラ」とはフィンランド語で「アドバイス(ネウボ)の場所(ラ)」という意味です。

ゆめづくり地域協働プログラムについて

Hiroshima



呉市の地域協働課を訪問。地域を包括する住民自治組織(まちづくり委員会など)の協働による「地域協働型」のまちづくりを積極的に推進するための考え方を体系的に整理し、取組事項をまとめた「ゆめづくり地域協働プログラム」について説明を受け、地域力の向上や協働型自治体への移行について意見交換。

おかやまCLTリーディングプロジェクトについて

Okayama



岡山県の建築官備課が実施している、CLT建材の供給体制を地元関連企業のネットワークにより確立し、全国からの受注を引き受けられるCLT建築産業の土壌を形成することを目的とする「おかやまCLTリーディングプロジェクト」について説明を受け、意見交換。

ワークライフバランスへの取り組みについて

Hiroshima



「最大の経営資源は人である」と考え、グループの人事施策推進体制を構築しているマツダ株式会社を訪問し、グローバル人材の育成や女性の活躍促進等のために実施しているワークライフバランス支援への取り組みであるスーパーフレックスタイム制や在宅勤務制度、育児休職制度、再雇用制度等について調査。

次世代産業への取り組みについて

Hiroshima



広島県商工労働局イノベーション推進チームを訪問。県内産業の付加価値の拡大や競争力強化を図るため、イノベーション力の強化に注力し、絶えず新たなビジネスが創出される環境づくりと中小企業の新事業展開や生産性の向上を促進する取り組みについての説明を聞き、創業支援の基盤づくりや潜在的創業希望者の拡大について研修。

「福岡県」県外調査報告

11月28日～30日

災害対策、スタジアム建設、農産物の販路拡大、高齢者の就職支援等について福岡県内の各地を訪ね、調査、研修を行いました。

災害時の救援物資の輸送について

Fukuoka



公益財団法人福岡県トラック協会の北九州緊急物資輸送センターを視察。緊急救援物資輸送協定の締結状況や緊急救援物資輸送に関する対応状況等の災害時の救援物資の輸送体制、緊急物資輸送センター建設までの経緯、施設の概要等について説明を受け、施設内を見学。

